

# 【2026年版 ぜんそく治療で使用可能な薬と避ける薬】

(この内容は2026年12月31日まで有効)

(公財)日本水泳連盟アンチ・ドーピング委員会

ぜんそくを治療しながら競技に取り組むスポーツ選手は多くおり、最近ではぜんそくが多い種目に水泳が挙げられています。ぜんそく治療で中心的な役割をもつベータ2作用薬と糖質コルチコイド(ステロイド)は、禁止表国際基準では一部を除いてベータ2作用薬は競技会時および競技会外の両方で禁止され、糖質コルチコイドの競技会時の使用は禁止されます。ドーピング違反とならないよう、必ず使用可能な薬剤を使用してください。

## <使用可能な薬の例>

### 【吸入薬】

- ・ アドエアエアゾール、アドエアディスクス
- ・ オルベスコインヘラー
- ・ キュバルエアゾール
- ・ サルタノールインヘラー
- ・ シムビコートタービュヘイラー
- ・ セレベントディスクス
- ・ テリルジーエリプタ
- ・ パルミコートタービュヘイラー
- ・ プデホル吸入粉末剤
- ・ フルタイドディスクス
- ・ フルティフォームエアゾール
- ・ レルベアエリプタ

### 【飲み薬】

オノンカプセル、キプレス錠、シングレア錠

テオドール錠、テオロング錠

### 【注射薬】

ゾレア皮下注、テゼスパイア皮下注、デュピクセント皮下注、

ヌーカラ皮下注、ファセンラ皮下注

通常の処方量の範囲で使用可能です。使用量を守りましょう！

## <使用できない薬の例>

- ・ アテキュラ(インダカテロール)
- ・ イノリン(トリメトキノール)
- ・ エナジア(インダカテロール)
- ・ ブリカニール(テルブタリン)
- ・ ベネトリン(サルブタモール)
- ・ ベロテック(フェノテロール)
- ・ ホクナリン(ツロブテロール)
- ・ メプチン(プロカテロール)
- ・ 漢方薬

例外的に禁止物質の使用が認められるためにはTUE(治療使用特例)の手続きが必要となりますが、使用可能な薬を使用できない明確な理由が条件として求められます。

テープ剤(貼り薬)など剤型に関わらず避けてください。

## <使用時に注意が必要な薬の例>

- ・ 糖質コルチコイド(ステロイド)〔飲み薬、注射薬〕

薬の種類、使用するタイミング、競技者カテゴリーによって対応が異なります。日本水泳連盟ホームページに掲載されている「糖質コルチコイドについて」もしくは、「薬の相談窓口」で確認しましょう。

オルガドロン、ケナコルト、コートリル、コートン、ソルコーテフ、ソルメドロール、デカドロン、デキサート、デポメドロール、プレドニン、メドロール、リノロサル、リンデロン

( )内には薬の成分名を記載してありますが、ジェネリック医薬品の販売名にも用いられています。

薬剤名はアイウエオ順に記載

【監修】(公財)日本水泳連盟 医事委員会 渡部 厚一

【作成】(公財)日本水泳連盟 アンチ・ドーピング委員会 大友 謙太郎

【作成年月日】2026年1月1日